戦後六〇年の幻の荻島飛行場

（平成十七年）

今年は、昭和二〇年に日本が連合国のポツダム宣言を受け入れ、不戦の誓いの下、平和国家の道を歩んでから六〇年の時が流れた。還暦を迎えたのである。

かつて、越谷から岩槻にかけて陸軍の飛行場があった事実が忘れられようとしている。しかし、今もなお兵舎や蓋をした暗渠（※）、飛行場の一部の施設の跡が残り、当時の滑走路や誘導路が道路として利用されている。越谷の荻島村から岩槻の新和村にまたがる飛行場であった。地元では通称「荻島飛行場」「新和飛行場」などと呼ばれた。また飛行場敷地の大部分が新和村の論田地区にあったので「論田飛行場」とも呼ばれた。

終戦の前年、昭和十九年七月に地元の農家十三軒が陸軍から呼び出されて強制的に立ち退かされて飛行場の建設が始まった。当初は飛行場設定隊の七百名によって開始された。その後、近隣の住民の勤労奉仕や動員された朝鮮の人によって炎天の日も雨天の日も人海戦術で突貫工事が行われ、終戦の年の八月上旬に完成した。しかし止まりきれず滑走路北端あたりに不時着した一機（操縦士は岩槻藩主の後裔大岡忠憲氏）以外は一度も利用されず、玉音放送があった十五日の終戦日を迎えたのである。正式名は「越谷陸軍飛行場」という。

滑走路の名残が現在も道路として使用されている。「しらこばと水上公園」から南に一直線に伸びている道路である。この滑走路の幅は現在の道路よりも広く、三十三間（六〇メートル）で、長さは一五〇〇メートルである。滑走路の北端は、「しらこばと水上公園」の北隣、越谷西高校の校庭南端あたり、滑走路の南端は、越谷市小曽川の北隣、さいたま市岩槻区末田一七－一（大石重機興業）あたりである。

さいたま市岩槻区末田一四七の田島喜一氏（明治四五年一月一日生）によると、当時の南北に走る「滑走路の東端の側溝の名残が田島家の庭の入口にあって、また滑走路自体の名残が田島家の母屋の西の木造平屋の柔道場の南側に広がるコンクリートである」という。そして「この飛行場は、練習機や戦闘機のような小型飛行機用として建設されたと聞いている」とのことである。「終戦後、滑走路のコンクリートは、東京の業者によって東京の復興のために砕かれてただで運ばれた」という。そのため地元では、田島氏のアドバイスを受けて「その業者から二百円の通行税をとるようにした」という。

兵舎は、滑走路南端の東方の南荻島にある「越谷ホーム」周辺にもあって、その近くに今でも一カ所残っている。

戦車が通っても壊れない頑丈な蓋がされた暗渠は、滑走路の東西に平行してあり、現在の道路から東西約二〇〇メートル離れている。特に西側の方ははっきりと残っている。

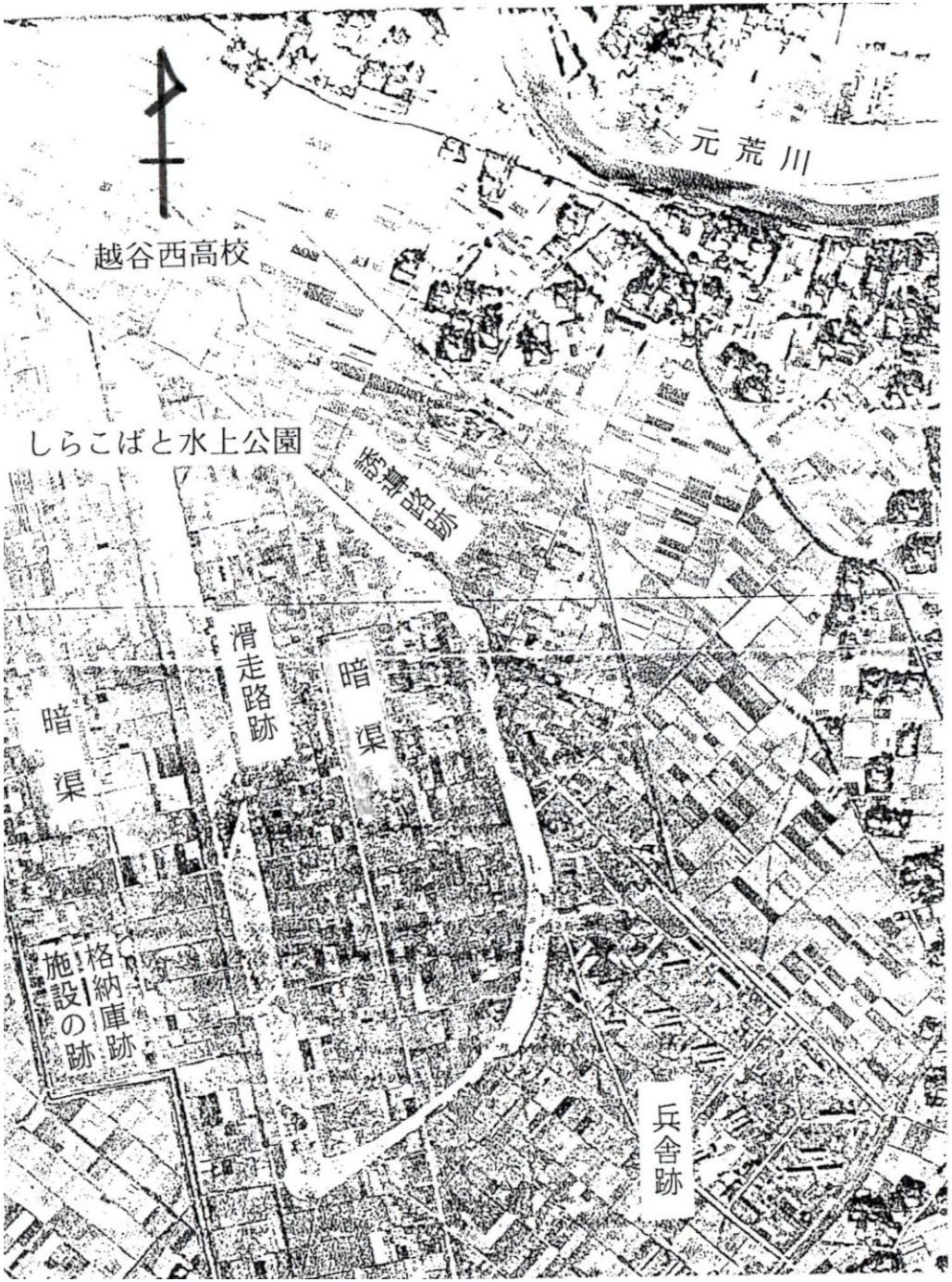
飛行場の施設の一部（田島氏によると未完成の施設と推定）は、高曽根の田圃の中にある「しらこばとメモリアルパーク」の南方一七〇メートル先にある。高さが一二〇センチ、幅が一五〇センチ、長さが三八〇センチのコンクリート製の何かの台が二個残っている。また、そのすぐ東方にある南北に細長く広がる草むら地は格納庫跡であるという。

飛行機を導く誘導路は、滑走路の北端と南端を東側に突出したカマボコ型で結ばれていて、現在でもその大部分が道路として使用されている。道路以外の使用としては「しらこばと運動公園」や「しらこばと水上公園一般駐車場」の一部となっている。

※地元では「めくら暗渠」と呼ばれました。現在は差別語なのでご使用にはご留意下さい。

☆平成17年8月1日の発行の埼玉新聞の記事「岩槻に『幻の飛行場』」（菊地正志氏）、「岩槻　城と町まちの歴史」（聚海書林）を参照し、田島喜一氏の協力も得ました。

幻の荻島飛行場

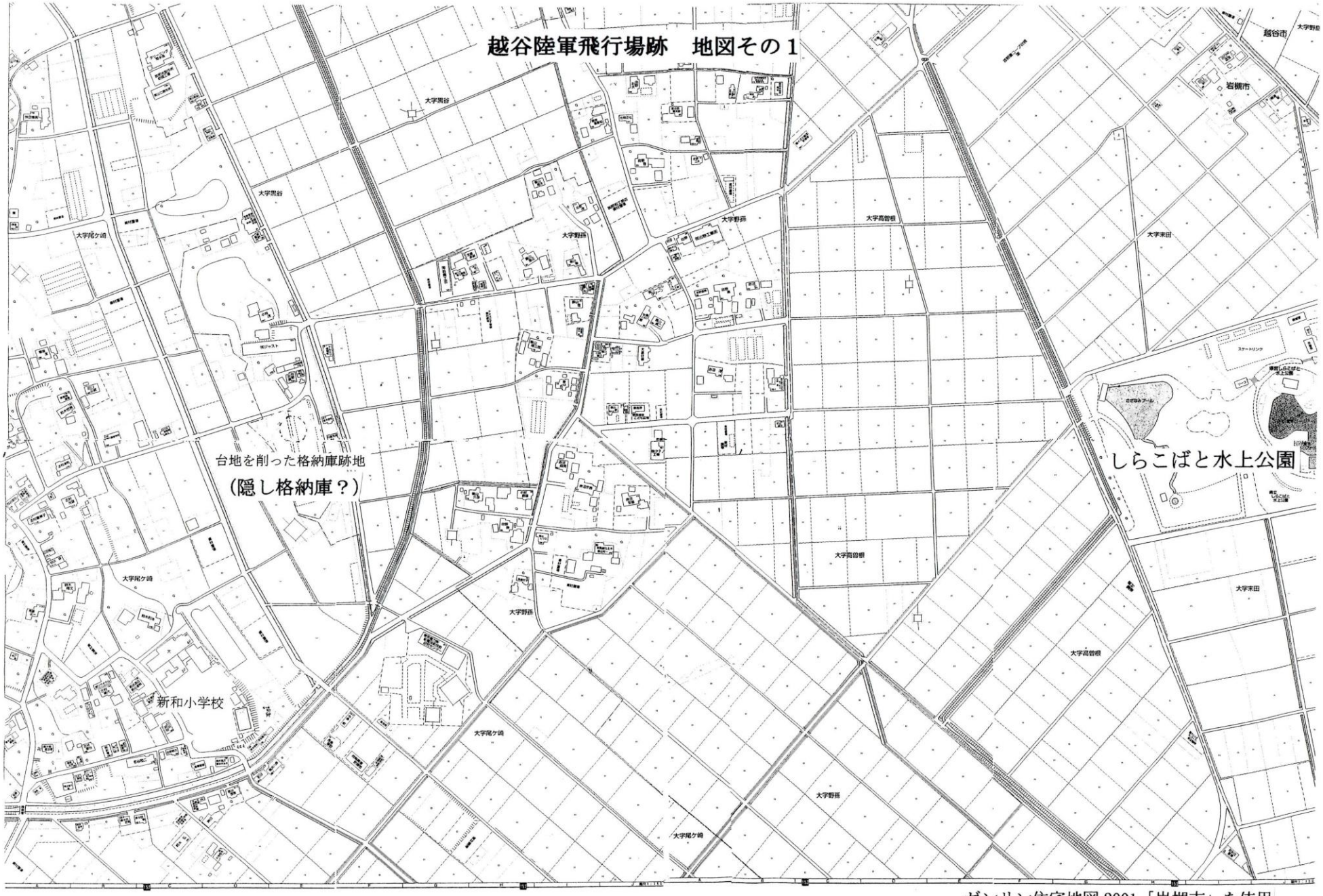


滑走路のコンクリート跡

道路として使用されている滑走路跡

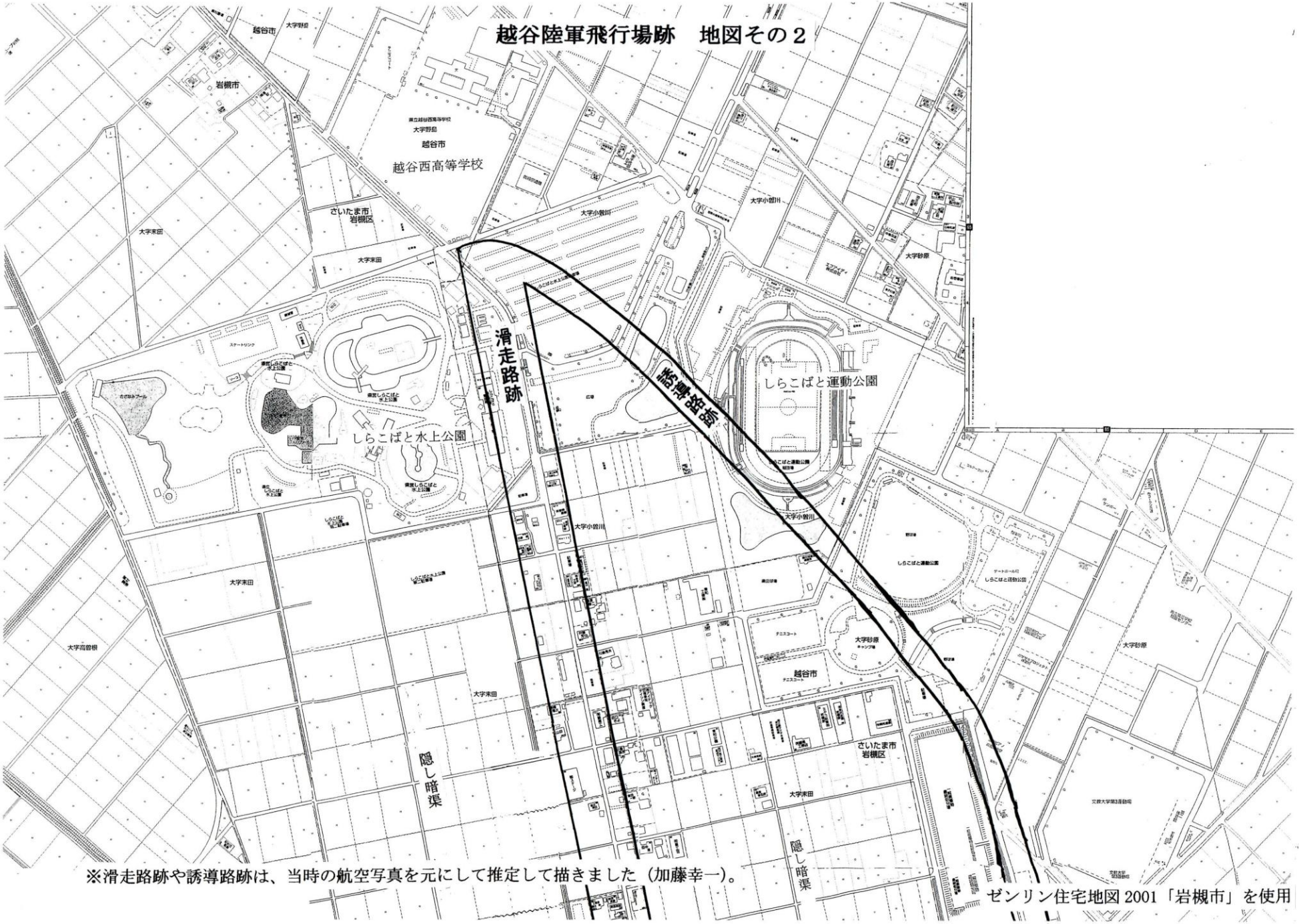
飛行場の施設の跡

越谷陸軍飛行場跡　地図その１



ゼンリン住宅地図 2001「岩槻市」を使用

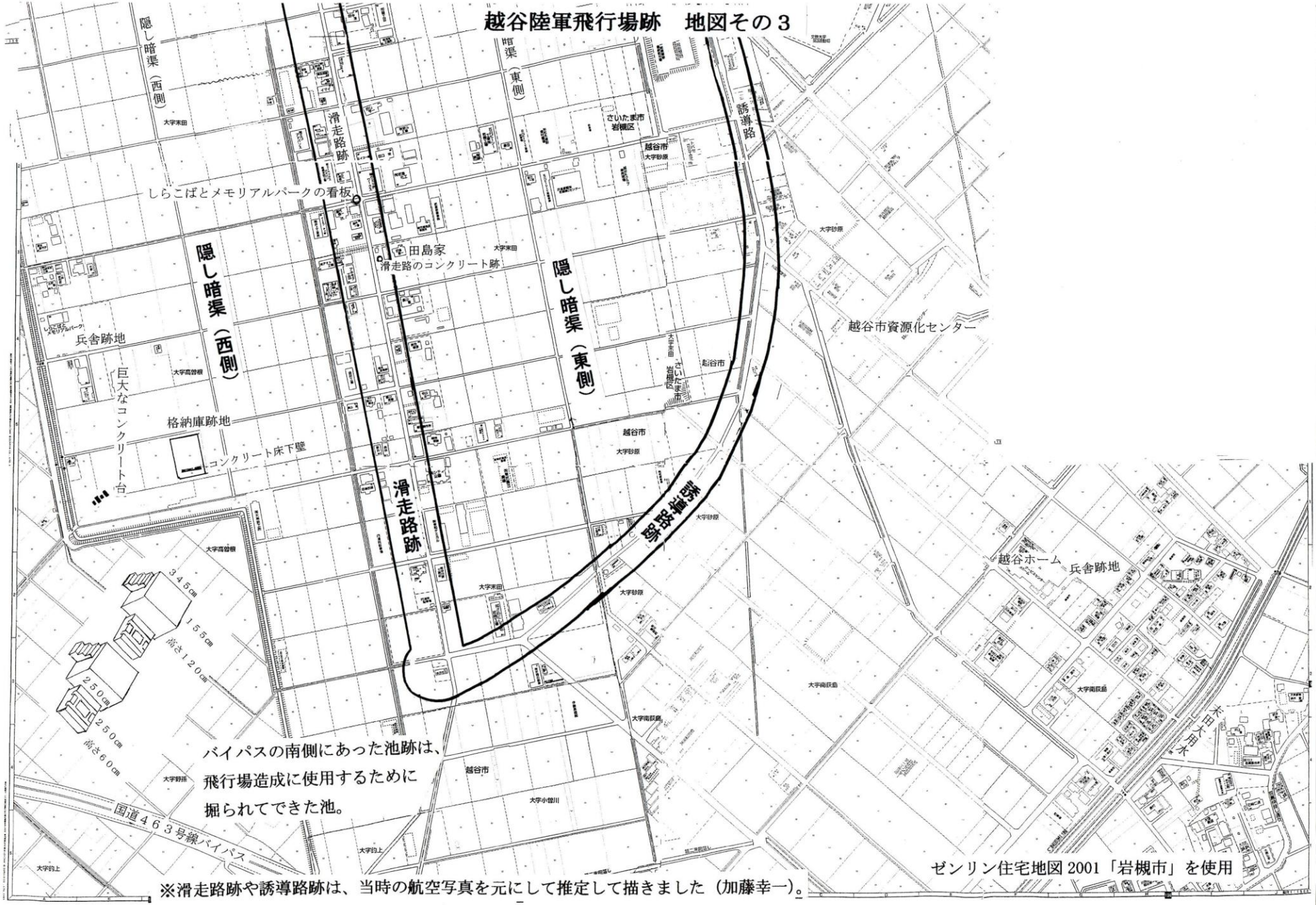
越谷陸軍飛行場跡　地図その２



※滑走路跡や誘導路跡は、当時の航空写真を元にして推定して描きました（加藤幸一）。

ゼンリン住宅地図 2001「岩槻市」を使用

越谷陸軍飛行場跡　地図その３



※滑走路跡や誘導路跡は、当時の航空写真を元にして推定して描きました（加藤幸一）。

荻島飛行場の滑走路跡

荻島飛行場の滑走路の南端より北方（しらこばと水上公園方面）を見る。

荻島飛行場の今も残る「滑走路」のコンクリート跡

「幻の荻島飛行場」　滑走路のコンクリート跡（平成１７年８月２１日）
上は平屋の柔道場と田島家の母屋。田島家の庭先の垣根の下に滑走路の側溝あり。

滑走路に平行して今も残る滑走路西側の「隠し暗渠」

【南荻島にあった荻島飛行場の兵舎の名残の建物】

平成１７年１０月現在も残る
兵舎の名残の建物

上記の写真提供者：磯谷知子氏

『月刊わらじ』2001 年 1 月号表紙（平成13年）

歴史をさかのぼれば、この長屋は陸軍の兵舎であった。敗戦色濃きころ、松脂で飛行機を飛ばすといった状況にまで追い込まれた軍が、その試作機のための飛行場として急遽この南荻島を指定した。近郷近在の農家や強制連行された朝鮮・中国の人たちも徴用されて、飛行場が作られたが、ほとんど活用されずに敗戦を迎えたらしい。飛行場跡はコンクリートが厚く、どうしようもないので、国が開拓民を募って田んぼとして使わせた。兵舎は大蔵省が分譲長屋として、この開拓民たちが入居したようである。画伯のおじいさんも開拓で入った一人だった。そんな歴史的建造物が、あと数ヶ月で解体され、建売住宅になってしまうという。２０世紀を忘れるために。２１世紀新年を迎えるために。

※「わらじの会」は，障害のある人もない人もいっしょに街の中で生活していこうと、３０年前から活動している団体です。

※warajinokai.sakura.ne.jp/waraji/warajitop/**2001/2001**_01.htm より取得

飛行場の西方に今も残る巨大なコンクリート台

飛行場の西方に今も残る巨大なコンクリート台（拡大）

巨大なコンクリート台のそばの草むらに残る「格納庫」跡地

「格納庫」跡地にみられる床下南側のコンクリート壁跡

さいたま市岩槻区南平野の稲荷神社にある記念碑.

南平野の稲荷神社にある記念碑の表面

荻島飛行場の滑走路のコンクリート使用

記念碑裏面、荻島飛行場の滑走路のコンクリート使用

「碑石ハ新和飛行場ヨリ運搬使用セル一片」（碑文の一部）と刻まれている。

「新和飛行場」は別名「荻島飛行場」とか「論田（ろんでん）飛行場」とも呼ばれた。